

地域貢献活動とは

我々建設業に携わっている者は「いざ 鎌倉」と同様であると思っている。脆弱な日本の中で建設業とは、地震、台風、大雨、大雪など常に災害の最前線に構え、地域の安全、安心の為、または重要な雇用の場として活躍している。我々は地域に密着した地元の企業であり、地域に感謝し、誇りを持って仕事をおこなっている。そのような気持ちが無い限り、いざといった時の災害の対応など出来るわけがないと思っている。

実際にそのような場面に遭遇した地域の住民は必ず我々に感謝しているが、一般の人はどう感じているだろうか。残念ながら、お金をもらって仕事しているから当たり前と思っている人も多いのではないか。先の東北での大震災においてもマスコミやテレビには自衛隊の活動が注目されている。彼らも命がけで一生懸命働いているのは事実である。しかし発生後の初動体制は地元建設業であり、発注者との連携、消防や警察の連携も確実に訓練通り行って活動しているのである。

我々は「縁の下の力持ち」という自分達なりの美学があり、黙っていてもわかってくれる人がいるというような考えの業界であった。しかしこれからもこれで良いのだろうか。やっていること、必要な事、今後残さねばならない知恵、全て情報発信できる仕組みが必要ではないかと感じている。自衛隊では広報活動について人材育成を始め記録など、写真、ビデオの撮影についても研修を重ね、しっかりと情報として発信、記録できるシステムもあり、まさにここがこれから必要ではないかと思う。

我々は発信する事について、こんなに大変な復旧作業を行っていることをわかってほしいという事が目的ではなく、災害の状況や、復旧状況、今後の対応、これからのインフラの考え方など様々なデータ、記録として情報の共有として行いたいと思っているのが本音である。これこそが本当の意味での我々が目指す社会貢献活動ではないかと思っている。

我々の業界の就労人数も激減し、逆にインフラ老朽化が加速し、災害も増えている。今後、地域を本当に守れるか心配でならない。我々の活動についてしっかり情報発信し、国民に理解され、この業界の入職者が増え、これからの地域を守る「インフラの町医者」の人材を確保することが必要ではないだろうか。国家施策として早急に今まで以上の日本の国土強靱化の取組みを考えるべきではないだろうか。

長瀬 雅彦